

■ Sheet1 の使い方

■授業の開始

1. 「授業を始める」をクリックする。
2. 先生(AI)の返答を聞き終わると、以下の選択肢がでる。
「まだよくわからない」 → さらに AI が説明します。これを繰り返すたびにレベルを下げて分かりやすく、前提知識も加えて説明していきます。
「わかった」 → 確認パートに進みます。
「他の授業をして下さい」 → 授業中の科目をパスして次の科目の授業に移ります。

■確認パート

1. その授業の理解度を判定する 3 択問題が出されます。
2. 1～3 のどれかをクリックします。
3. 正解すると、その授業に対する理解度ポイントが 1 加算されます。
4. 正解・不正解にかかわらず問題の解説を行います。
5. 先生(AI)の返答を聞き終わると、以下の選択肢がでる。
「まだよく分からない」 → さらに AI が説明します。これを繰り返すたびにレベルを下げて分かりやすく、前提知識も加えて説明していきます。
「わかった」 → 次の授業に進みます。
「他の授業をして下さい」 → 授業中の科目をパスして次の科目の授業に移ります。

■授業進行について

Settings シートの“B3 0”(授業進行に必要な理解度)の数は、確認パートで説明した理解度ポイントがこの数以上のときに、その科目の次の授業にすすめます。理解度ポイントが満たないときは、その授業を繰り返します。

Settings シートの“B3 1”(一日の科目ごとの授業回数)の数は、その日に行う各科目の授業回数です。理解度ポイントとは関係なく、設定した授業回数だけ各科目の授業を行います。各科目ごとに授業開始→確認パートを行うことで、授業回数が 1 回カウントされます。

■今日の予定を確認

「今日の予定を確認」または「今日の予定」をクリックすると、その日行う授業予定と、科目ごとの選択学年で学習する全授業に対する終了割合を表示します。この場合の終了とは、設定した理解度を超えている授業になります。

■復習について

この機能は、いくつかの授業パートを行ったあとに選択してください。ソフトを起動して最初のメニューに、「復習したい」があります。これをクリックすると復習パートに入ります。選択している科目の内、これまでに授業完了した授業の中から、理解度の低いものから授業を始めます。その他の動作は通常の授業パートと同じです。復習をやめたいときは「復習をやめる」をクリックします。

■保存して終了

「保存して終了」をクリックすると、メッセージの後に保存を行います。その後さらにエクセルの機能から保存の有無を問われることがありますが、任意で選択してください。すでに保存はされています。また、自動保存を有効にしている場合は、AI の応答ごとに上書き保存を行っています。

■フリートークについて

Sheet1 の“A1”のセルに自由に AI への質問を入力して、“エンター”を押します。フリートークパートに入り、AI に自由に質問したり会話をすることができます。授業に戻る場合は「授業を始める」をクリックします。フリートークパートでは、ソフト起動時の選択肢である、「授業を始める」「復習したい」「今日の予定を確認」が出現します。

■音声の ON/OFF について

Sheet1 の B1 のスイッチをクリックすることで、音声の ON/OFF を切り替えます。OFF にすると voicevox による音声生成が省略されます。これにより、返答が早くなります。voicevox による音声生成は PC の性能により、かなり動作が重くなる場合があるので、必要に応じて切り替えてください。

■ふりがなの ON/OFF について

Sheet1 の C1 のスイッチをクリックすることで、AI の返答にふりがなを付けるかの ON/OFF を切り替えます。ON の場合、返答にふりがなが付きますが、これは音声では除外されます。

■自動保存の ON/OFF について

Sheet1 の D1 のスイッチをクリックすることで、自動保存の ON/OFF を切り替えます。ON の場合、返答の度に上書き保存を行います。

■ Settings シートについて

■B1：履歴最大文字数（重要）

Gemini に送る「会話履歴」の最大文字数を設定します。

推奨値：5000 文字※

※基本的に授業を行うだけなら履歴はそれほど関係ありません。しかし、履歴を長く残すことで、これまでの返答を加味した応答が得られます。フリートークをメインで使用する場合、5000 以上が推奨です。履歴を長く残すほど、トークン消費が増えるので API キーの使用量も上がります。

履歴を消したい場合は、History シートの A1 をクリアしてください。

■B2：Gemini キャラ設定（人格設定）

Gemini に送る「キャラクター設定（人格）」を記述します。ここに書いた内容が AI の話し方に反映されます。

■B3：VOICEVOX キャラ（ドロップダウン）

VOICEVOX で使用するキャラクターを選択します。選択肢はあらかじめ登録されています。

■B4：VOICEVOX speaker ID（自動入力）

B3 のキャラ選択に応じて自動入力されます。ユーザーが編集する必要はありません。

■B5：Gemini モデル名

以下 2 つのモデルが使用できます。ドロップダウンで選択してください。ユーザーの用途に合わせてご選択ください。

推奨モデル： **gemini-2.5-flash**

- 高速
- 安定
- 会話用途に最適

上位モデル： **gemini-3.5-flash**

AI の返答、とくに図解がかなり向上します。しかし、料金は **gemini-2.5-flash** よりも高くなります。これは、思考トークンという AI の思考が深くなるからと考えられます。

本ソフトでは、標準設定として「Gemini 2.5」を使用しています。

Gemini 2.5 は、学習用の解説や図解生成において十分な品質があり、

コストパフォーマンスに優れたモデルです。

一方で、より高品質な図解や文章表現を求める場合は、
上位モデルである「Gemini 3.5」を利用することも可能です。
ただし、Gemini 3.5 はトークン量が多くなる傾向があり、
同じ利用量でも 2.5 と比べて料金が大きく高くなる場合があります。

そのため本ソフトでは、

通常利用：Gemini 2.5 を推奨（標準設定）

品質重視：必要に応じて Gemini 3.5 を選択（高コスト）

という方針としています。

ご利用の際は、用途やご予算に応じてモデルをお選びください。

■B6：run.exe パス

VOICEVOX Engine の run.exe のフルパスを入力します。

例：

コード

C:¥VOICEVOX_ENGINE¥run.exe

設定後は **Excel** を保存して閉じ、再起動してください。

■B7：ユーザー名

AI があなたを呼ぶときの名前です。

■B8：ニックネーム

AI があなたを親しく呼ぶときの愛称です。 空欄でも構いません。

■B12:ユーザーの年齢

ユーザーの年齢を数字で入力してください。歳は自動で付されます。AI は、ここで設定した年齢に合わせて応答します。

■B13:学習開始学年

学習を開始する学年をドロップダウンから選択してください。選択した学年以降の授業からスタートします。

■B15～B28:科目選択

授業を受ける科目を選択してください。有にすることで授業を選択したことになります。無にした授業は行いません。F列の注釈で、例えば※3-6年となっている授業は、選択しても学年が3年以上でないと開始されません。

■E15～E28:優先授業選択

選択した授業のうち、優先的に開始する授業を設定します。最優先にした授業を先に行い、優先とした授業を次に行い、設定のない授業を次におこないます。

■B30:授業進行に必要な理解度

ここで設定した理解度に達した授業は終了したとして、次の授業に進みます。理解度は授業ごとに行われる確認パートで正解したときに1ずつ上がります。

■B31:一日の科目ごとの授業回数

1日ごとに、ここで設定した授業回数だけ各科目の授業を行います。授業パート→確認パートまでが1回の授業になります。

■ History シートの説明

History シートには、AI との会話履歴が保存されます。

■ 履歴をクリアしたい場合

History シートの A1 セルを Delete (削除) してください。

- これだけで履歴が完全にリセットされます
- 他のセルを触る必要はありません